

柑芦会 本部 ニュース

第 37 号 2023. 1. 5.



国立大学法人
和歌山大学

—そして ここから—



1. 新年ご挨拶

新 年 の ご 挨 拶

会長 北村修一（大 18）

皆さまには、輝かしい新年をご家族お揃いで健やかに迎えのことに、お慶び申し上げます。

さて、今年の干支の「癸卯（みずのと・う）」には「これまでの努力が花開き、実り始める」という縁起のいい意味があるそうです。我々の母校の経済学部の前身である和歌山高等商業学校の創立から100年を迎え、今年10月28日には和歌山大学のホームカミングデーに合わせて学内で記念式典が開催される予定です。これに加え、学部の「100年史」の発刊も予定されています。是非とも多くの方々のご参加とご購入をお願い申し上げます。

また柑芦会自体も3年後には設立100年を迎えます。柑芦会では会員数の逡減傾向に歯止めと財政の健全化するため、体制強化と各種事業の再構築などの諸課題に対し副会長会議や支部長会議、各種委員会活動などを通じて検討しておりますので、皆さまにおかれましては、引き続き柑芦会活動へのご理解とご支援をいただきますよう、よろしくようお願い申し上げます。

会員の皆さまとご家族のご健勝ご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。



富士川鉄橋と富士山（撮影 北村修一）

2. 支部だより・・・各支部総会開催

東海支部総会

令和4年度柑芦会東海支部総会報告

東海支部長 垣見祐二（大25）

11月19日(土)、東京第一ホテル名古屋錦にて、東海支部総会、講演会および懇親会を開催いたしました。ウィズコロナということで、今年度の東海支部総会は、内容をコロナ禍以前の、通常での開催をめざしました。出席者は23名と昨年並みの規模にとどまりましたが、ご来賓として、大学からは芦田経済学部長、竹内社会インフォマティクス学環準備室長、柑芦会からは本部の北村会長、平林神戸支部長、糸川大阪支部長、井上三重支部長、草場東京支部幹事長にお越しいただき、会を盛り上げていただきました。

総会では、まず、垣見東海支部長からの挨拶、芦田学部長から和歌山大学伊東学長のご祝辞代読とご挨拶、北村会長からはご挨拶をいただきました。続いて、伊藤副支部長から、令和4年度事業報告、会計報告、監査報告、令和5年度の行事予定が報告されました。とくに今回総会は、役員改選期にあたるため、新役員体制の提案、および会計年度を本部に合わせ毎年4月～翌3月に変更するため、規約改正が提案されました。若干の質疑のあと全員の拍手をもって承認されました。

総会終了後、竹内準備室長による講演会に移りました。演題は「学部等連携課程制度」に則った学部相当の新しい教育課程「社会インフォマティクス学環」で、来年4月からスタートする新学環について、その目的や教育内容、今後の展開等について解説していただきました。国内外のさまざまな事例を面白おかしく紹介しながらの説明で、難しい内容を分かり易く解説していただきました。和歌山大学の今後の新機軸を担う重要な試みであると感じました。

続いて、出席者全員での記念写真撮影、そして懇親会へと移りました。懇親会は鈴木新幹事長の司会で進められ、ご来賓の各支部の代表からのご挨拶をいただくとともに、初参加者や若手・中堅による近況報告をしていただき、懇親会予定時間の一時間半は瞬く間に過ぎました。

最後に、東海支部総会参加者の近年の推移をみると、コロナ禍以前のピークから半減している状況です。これまでの同窓会の担い手だった方々の引退や、これに代わるべき世代交代が滞っていること、さらに、3年間にわたるコロナ禍による活動への制約が拍車をかけていると考えます。同じ大学・学部を卒業した方々の人脈形成や情報交流の基盤としての同窓会活動の活発化のため、若手・中堅を対象にした潜在的な会員への働きかけを強化していくことが重要だと改めて認識した今回の総会でした。



九州支部総会

九州支部総会レポート

九州支部長 石川 和彦 (大 19)

2022年度の九州支部総会は11月26日に博多で開催いたしました。

9月に部分開通した西九州新幹線で長崎より博多へ向かった。

以前の特急「カモメ」では2時間かかっていたが今回は1時間30分で30分の時間短縮ができたが料金はかなりアップした。この費用対効果をどうとらえるかはむずかしいところだ。おそらく人それぞれの受けとめ方があるのだろう。特に全面開通には佐賀県側の根強い反対があり前途多難を思わせるものがあるからだ。

さて、前年11月にコロナ禍とはいえ、2年連続中止にしてはいつまでもできないのではないかと危惧し開催にふみ切った経緯がある。コロナが完全に終焉するのはありえないのではないかと思ったからである。たとえ、参加者が少なくてもやるべきことをやらねばいけない気がした。というのも、私が支部長を引き受けてから丸5年になるが年に一度の柑芦会誌の発送と総会開催だけはしっかりやらねばならないと当初からの思いがあった。

今回は本部より北村会長の参加はなかったが神戸支部より2名の特別参加をいただきまして総参加者は10名でした。コロナ第8波が忍び寄るなか、二桁に達したのは実に数年ぶりのことでうれしい限り。中には私が初めてお会いする方もいて、楽しい会となった。

まず、支部長である私より決算報告と支部の現況説明を行いました。

次に神戸支部の辻氏（今回会長代理も兼務）より柑芦会本部からのお知らせと活性化委員会の活動状況などの説明がなされた。

11期前支部長宮本氏の乾杯により懇親会を開始した。

宴の後半における恒例の近況報告も和気藹々のうちに進行し、各人の話しに感心したり驚いたりしたものです。人にはそれぞれの人生体験があります。そういった話題が飛び交うときには会話は自然と盛り上がっていくものです。

結びに久しぶりに校歌と寮歌をみんなで唄い散会した。

最後に 2023 年の経済学部創立 100 周年イベントには九州からもできるだけ多くの人に参加できればと思っています。



北陸支部総会

北陸支部総会開催

北陸支部長 林 国敏 (大 41)

北陸支部総会は11月26日に金沢市内で開かれた。参加者は4名。例年日曜夜だったが、初めて土曜の昼に開催した。林支部長(41期)が冒頭あいさつ。今回参加できなかったが、北村会長からのメッセージも紹介された。初めに初参加の若杉佳之さん(47期)が自己紹介。各自も自己紹介と近況を報告しあい、一年ぶりの再会を喜んだ。その後、若杉さんが質問攻めにあい、栄谷キャンパスでの懐かしい思い出話に花が咲いた。前支部長の角田正一郎さん(26期)は過去30年の北陸支部の歩みを紹介し、「これまで細々とでも続けてきて本当に良かった」と感慨深そうに語った。

今後の活動についても、様々な意見が出された。今年も総会一か月前から電話による勧誘を敢行。なかなか本人と話せない現状や、中には不審者と勘違いされて怒鳴られるケースもあったことが報告された。こうした点を踏まえ、今後は今まで以上に柔軟な運営をしていくことを決議した。若杉さんから明年以降も参加する意向を聞くことができ、新しい仲間が増えた喜びと、カニ料理など美味しい

食事で笑顔満開の総会となった。



三重支部総会

三重支部総会報告

三重支部 幹事長 山際雅彦 (大 31)

三重支部 2022 年度総会は、2022 年 11 月 27 日 (日)、津駅隣接の「グリーンパーク津」にて開催されました。今回はご来賓として北村柑芦会会長、垣見東海支部支部長にもご出席頂き総勢 8 名での総会となりました。

今年度の総会も新型コロナウイルスの影響から、講演会や懇親会は行わず総会のみで開催としましたが、会員の近況報告等も行い楽しい一時を過ごしました。来年度は新型コロナウイルスの騒動も治まり、通常の総会が開催できるよう期待したいと思います。

(三重支部主要役員 敬称略)

支部長 井上俊一 (大学 18 回)
副支部長 小谷 剛 (大学 20 回)
副支部長 太田 均 (大学 22 回)
副支部長 水谷正道 (大学 26 回)
相談役 春山健児 (大学 6 回)
相談役 藤澤真純 (大学 12 回)
幹事長 山際雅彦 (大学 31 回)
副幹事長 加藤泰三 (大学 27 回)

京滋支部総会

令和 4 年度柑芦会京滋支部総会報告

京滋支部長 和田壽郎 (大 14)

令和 4 年度京滋支部総会が、令和 4 年 12 月 3 日 (土) 正午より「からすま京都ホテル・中国料理『桃

李』で開催されました。新型コロナの感染の再拡大が懸念されるものの、政府の経済活動の活性化へのシフトにより晩秋の京都は観光客の賑わいで活況を呈しておりました。

そのような中、昨年に引き続き思い切って開催に踏み切りましたが、当日は柑芦会本部の正副会長会議の日と重なったため、本部、北村会長の計らいにより京都で本部会議を開催していただき、当支部総会にご来席いただくことになりました。ご来賓として柑芦会本部会長北村修一様、大阪支部支部長糸川公偉様、神戸支部支部長平林義康様、東海支部支部長垣見祐二様、東京支部支部長小林淳様のご臨席を賜りました。

宮下幹事長司会のもと和田京滋支部長の開会挨拶に始まり、ご来賓の紹介並びに北村柑芦会会長のご挨拶の後、支部総会議事に進みました。第1号議案平成4年度会計報告（宮下幹事長）並びに監査報告（品田監事）、第2号議案清水聖心（大学31回）新支部長の選任、第3号議案支部会費のコンビニ・スマホ決済移行が審議され何れも原案通り可決されました。

第一部支部総会は無事終了し小休憩の後、第二部懇親会に進みました。懇親会の冒頭、ご来賓の各支部長より支部の現況を兼ねたご挨拶を頂戴し、廣瀬正和氏（大12回）の乾杯のご発声により食事及び歓談へと進みました。今年もコロナ禍の影響で会員出席者が当初11名の予定が9名となりました。少ないながら、欠席者からの近況報告のハガキのコピーを皆んなで確認し合い、出席者各人の近況を交えた軽妙なスピーチと相まって大変賑々しく交流の輪を深め和気藹藹の裡に時間も過ぎました。谷口前支部長リードのもと出席者全員による寮歌斉唱、品田監事の閉会の挨拶でお開きとなりました。

京滋支部の会費納入者は毎年40名程ですが、総会出席者は少なくとも支部を支える会費納入者の方々が厳然とおられることを肝に命じ、清水新支部長のもと今後の支部活性化への道筋を会費納入者の方々のご協力を仰ぎながら進めていくことが当面の課題であり目標です。令和5年度より支部会費をコンビニ・スマホ決済システム活用による本部一括事務処理へ移行しますので、支部会費納入者の増加も期待しながら新年度事業を展開していく所存です。





〔和田支部長〕




〔清水次期支部長〕

〔谷口前支部長〕

和歌山大学経済学部同窓会 柑芦会 本部 事務局
 〒540-0012 大阪府中央区谷町 4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町 207 号
 Tel:06-6941-4986 Fax:06-6947-7925 E-Mail: honbu@kourokai.org



柑芦会ホームページ QRコード 

「柑芦会ホームページ」（公開サイト） <https://dousoukai.site/kourokai/>



フェイスブック「柑芦会オフィシャルページ」
 （非公開グループ）
